

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

2025年2・3・4月号

編集発行人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

代表理事 中村 信博

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町2-3

075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第637号

毎週の礼拝で捧げる牧会祈  
禱では、世界各地に続く戦争  
と命を奪われ続けている人々  
を憶え、神による平和実現を  
祈り続けています。

しかし、ロシアのウクライ  
ナ侵攻から間もなく三年にな  
ろうとしており、イスラエル  
とパレスチナ(ガザ)との戦闘  
からも一年以上が経過し、や  
つと六週間の一時停戦と報じ  
られています。その実施も  
不透明です。

私たちの教会と同じ敷地内  
で、ミャンマーのカチン族の  
方々が毎週百名以上集まって  
礼拝を捧げています。彼らの  
母国では、少数民族と国軍の  
間で長く戦闘が続いているた  
め、日本に逃れて来ているカ  
チン族はじめ、カレン族、チ  
ン族の方々をも憶えて、彼ら  
が抑圧から解放され、平和・安全  
をと強く祈っています。

このような課題を祈り続け  
ていますが、私の祈りはなか  
なか聴かれることなく、不信  
仰なことに虚しさや飲み込ま  
れてしまいそうになることが  
あります。「お前などがどれだ  
け祈っても無駄なんだよ」、そ  
んな悪魔のささやきが心に響  
いてきます。

\* \* \*

そのような折々に、故・大塩  
清之助牧師の語りを思い起こ  
して、自分を鼓舞するように  
しています。

私の妻は、大塩牧師が開拓  
し、長く牧会された日本基督  
教団板橋大山教会で育てら  
れ、私たちの婚約式も司式し  
ていただきました。

## 「『神の愛の』エネルギー保存の法則」



関東運営委員・  
関東活動センター所長代行  
古賀 博

今から三十数年も前、新た  
に開拓伝道を始められた伝道  
所に大塩先生ご夫妻を訪ねた  
妻は、大塩先生から次のよう  
に伺ったとのこと。

宣教を広く捉えて、社会の  
抱える多くの問題との関わり  
を真摯に続けてこられた大塩  
牧師ですが、時折、自分のやっ  
ていることなど実にちっぽけ  
で、全ては無駄ではないのか

との想いに苦しむことがあ  
り、何度もう社会的な取り  
組みはやめようと思われたと  
のこと。

しかし、実に不思議なこと  
に、祈りつつ関わった事柄に  
は、それ自体に何らの変化は  
見られなくても、波及効果の  
ようなものが起こされてくる  
ことも繰り返して体験してこ  
れたというのです。

ご自分の体験を踏まえて、  
次のように語られたのだと聞  
きました。

「ある時、高校時代に物理  
で習った『エネルギー保存の  
法則』を思い出しました。事物  
に注いだエネルギーは、どこ  
かへかき消えてしまうのでは  
なく、熱に変換されて保存さ  
れるというあの法則です。  
心血を注ぐように関わって

きて、解決の糸口さえ見えな  
い状況でも、そこに注いだ自  
分のエネルギーが熱として残  
るならば、それは無駄ではな  
い、いつかは何かが変わるか  
も知れないと思うようになり  
ました。

主イエスは私たちを愛し、  
絶えることなく新しいエネル  
ギーを送ってくださいます。  
そうであるなら、主イエスの  
愛を受ける自分は、主イエス  
の愛に応答する業に容易に疲  
れてはならない、と感じるよ  
うになりました。

こうしたあり方を、「『神の  
愛の』エネルギー保存の法則」  
と名づけて、大切にしている  
のです。 \* \* \*

虚しさへと引きずり込まれ  
そうになる時、私は大塩牧師  
の語りを心に呼び起こし、励  
ましを受けています。

私もまた主イエスの愛に押  
し出されているひとり。『い  
つかは何かが変わるかも知れ  
ない』と信じて、諦めること  
なく示されている課題へ向か  
つての取り組みに励まねばな  
らないと感じています、私も  
また「『神の愛の』エネルギー  
保存の法則」に立って。  
(日本基督教団早稲田教会牧師)

関東活動センター

●2024年度 宗教対話Ⅱ（共催：柏木義円研究会）

第10回 柏木義円公開講演会

「柏木義円の天皇観」

講師 聖学院教授 村松 晋さん

2024年11月30日(土)  
Zoomによるオンライン

柏木義円公開講演会が第10回  
天皇制と民主主義をめぐる  
考察

柏木義円研究会は11月30日、「柏木義円の天皇観」と題する公開講演会をオンラインで開催した（日本クリスチャン・アカデミー関東活動センター共催）。同研究会は2014年12月に開催された柏木義円シンポジウムを皮切りに、毎年異なるテーマで講演会を開催してきた。第一〇回を迎えた今回は聖学院大学教授の村松晋（すすむ）氏が講師を務め、アメリカ、香港、韓国からの出席者も含め約三十人が参加した。

柏木は幕末から明治期の激動の時代に育ち、キリスト教信仰を軸にしながら、天皇制と民主主義をめぐる思想を展開した。村松氏は、日本のキリスト教史研究において、柏木義円の天皇観と民主主義への

志向は、「現代の私たちが見過ごしてはならない重要なテーマ」とした上で、近代日本のキリスト者が皇室に親和的だった時代に「天皇の赤子」論の陥穽を指摘できた柏木思想は注目に値すると述べた。

特に、柏木が天皇神格化には断固反対していた一方、明治天皇を「国民の幸福を願う君主」として捉えた点を強調。天皇制を単なる権力構造として捉えるのではなく、道徳的・宗教的な視点から多面的に分析した柏木は、「天皇と国民がともに神の前に頭を垂れ、互いの人格を尊重し合う」という信仰を基盤に据えた社会構

想を提示し、平等で調和の取れた社会が実現する可能性を追求した。

村松氏は、柏木が天皇のキリスト教入信を待望した根拠となる数々の資料を示しながら、柏木だけでなく後の南原

繁や矢内原忠雄も占領期の終わりごろまでは皇室への敬愛を積極的発信し、「君主国体と民主主義」の併存に期待した点で同様だったと指摘。

「柏木の思想は単なる過去の遺産ではなく、今日の民主主義や社会正義の追求においても深い示唆を与えるもの。しかし、その理想を実現するために、天皇制や歴史的文脈を批判的に捉え直す作業を続けていくべき」と語った。

また、キリスト教界における「内なる天皇制」として、無意識のうちに教会運営に影響を及ぼす「名門意識」や「権威主義」「序列化」の問題を克服し、信仰の本質に立ち戻ることの必要性も説いて講演を結んだ。

講演の様子は、来春発行の『柏木義円研究』9号に収録される。  
（2024年12月2日付「キリスト新聞」より許可を得て転載）

●2024年度 神学生交流プログラム ◆企画準備中◆  
「(仮)これからのクリスチャン・リーダーシップ  
〜自らの弱さと共に歩む」

講師 西南学院大学神学部学部長 才藤千津子さん  
校長 関西学院大学名誉教授 神田 健次さん

2025年3月11日(火)〜13日(木)  
会場 西南学院大学とZoom

企画準備中

浦上 充

交流の時となっています。

神学生交流プログラムも、今年で14回目の開催となりました。このプログラムは、今から50年程前に各神学校の交流プログラムであった「インターセミナリー・カンファレンス」に代わるプログラムであり、2019年に第1回の開催以降、教派を超えた多くの神学生たちのエキキュメニカルな学びと

について語り合い、大きな気づきや励ましを得ています。これまで参加してくれた一五〇名近い方々は、全国で牧師やクリスチャン・ワーカーとして働き、今もこのプログラムで知り合った仲間たちと繋がりが、豊かな交わりを育んでいます。

今年は、これまで多くの神学生を派遣してきた西南学院大学を会場に神学部学部長である才藤千津子さんを講師としてお招きして開催する予定です。古代より、日本の玄関口として世界に開かれてきた歴史をもつ福岡の地に集まって才藤先生の講演を聞き、神学生同士のはなしあいを通して、豊かな交わりを形づくって欲しいと願っています。

物価高騰のあおりを受けて資金的には厳しい状況となっておりますが、戦争が続き、混乱する時代だからこそ、このように神学校や教派を超えた出会いや「はなしあい」の時を大切にしたいと願っています。今年は、3月11日から13日まで開催する予定です。豊かな会となりますよう、お祈りとお支えをよろしくお願いたします。  
（関東活動センター運営委員長）

関西セミナーハウス活動センター

●2024年度「開発教育セミナー」第3回  
「私からはじめるアドボカシー」市民社会を築くために

講師 市民社会スペースNGOアクションネットワーク (NANCIS) コーディネーター 加藤 良太さん

2024年9月7日(土)～8日(日)  
会場 関西セミナーハウス

アドボカシーという言葉は「政策提言」と訳されること  
があるが、もっと広い概念で  
あり定義は難しい。  
第一セッションでは、加藤  
さんから、市民活動、アドボカ  
シーで大切にしたいこととし  
て、一人ひとりが声を挙げる  
こと、他者の痛みに立つ、草の  
根のつながりを基点にするこ  
とだと平田哲さんはじめ多く  
の先達から学んだと、ご経験  
を踏まえてお話いただいた。

第二セッションでは、「あど  
ぼのストロク」に取り組んだ。  
このストロクを制作したの  
は、NGOや自治体議員などで  
様々な活動をしてきた人たち  
で、実際の経験を反映して、市  
民が取り組むことのできる具  
体的な行動がコマに書き込ま  
れている。参加者は、設定した  
社会課題の解決に向けて賛同  
者を集めていく。ふりかえり  
では、高校生からコマに書か  
れた「パブコメ」といった言葉  
への質問や、要望書(質問書)  
や陳情書とはどう違うのか?  
といった疑問が出された。

第三セッションでは、ポス  
ト2030に向けて、めざすべ  
き社会について考えた。加藤さ  
んからは、SDGsを含む20  
30アジェンダは、「我々の世  
界を変革する」ことをうたっ  
ているが、現状ではあと5年  
でそんな変革が実現できると  
は思えない。今後、「誰一人取  
り残さない」、平和で包括的な  
社会の促進をめざすには、「権  
利(人権)ベース」で考え、取  
り組むことが基本にあるだろ  
う、と提起された。最後に参加  
者は、めざしたい未来につい  
て分析するグループワークに

取り組んだ。

●2024年度修学院フォーラム「いのち」第2回  
「『ギルガメシユ叙事詩』と旧約聖書」

講師 立教大学・上智大学名誉教授 月本 昭男さん  
2024年9月15日(日)～16日(月・祝)  
会場 関西セミナーハウス

今もパレスチナのガザでは、  
イスラエルとイスラム主義組  
織ハマスの間で熾烈な戦闘が  
続き、多くの市民と子供が犠  
牲になっている。これには、ユ  
ダヤ教やキリスト教が深く関  
係している。なぜこんな悲惨  
な事態が生じ、収まるところ  
を知らないのか?ユダヤ教や  
キリスト教を生み出してきた  
旧約聖書や新約聖書は、パレ  
スチナ周辺の人々からどんな  
影響を受けてきたのか?それ  
を探りたいと思ひ、月本昭男  
先生に「『ギルガメシユ叙事  
詩』と旧約聖書」について語っ  
ていただいた。

「ギルガメシユ叙事詩」は、  
古代メソポタミアの都市国家  
ウルクの王ギルガメシユの物  
語である。これは紀元前2千  
年紀の初めに編まれ、粘土板  
に楔形文字で刻まれ、以後1  
500年に亘ってヘレニズム  
時代までも書き継がれ、読み  
継がれた文学作品である。そ  
こには「生と死」「友情」「女性  
の自立」などの普遍的な問題  
が語られており、それらは旧  
約聖書にも取り込まれた

月本先生は、何度もパレス  
チナの発掘調査に当たられ、  
古代オリエント史を幅広い視  
点から研究されてきた、旧約  
聖書の研究者である。今回は、  
その広範な経験と知見を基  
に、多数の図版を用い、また現  
地調査で発掘された粘土板な  
ども示して、今回のテーマに  
ついて丁寧に語って下さった。



講演は3回に分けられ、第  
1回は「死ぬべき人間はいか  
に生くべきか」と題された。こ  
の叙事詩には、ギルガメシユ  
の王が、その友エンキドゥと  
出会い、様々な経験を重ねた  
後に、彼と死別する様が語ら  
れている。王にとってエンキ  
ドゥとの死別は、耐えがたい  
痛手であり、王は、その死を乗  
り越えるために様々な試みを  
し、死ぬべき人間はいかに生  
くべきかを、自らに問う。その  
結果、死をものともしない英  
雄的生き方や、死への恐怖か  
ら永生を希求する生き方、限  
らねた人生を享受する生き方  
などがあると悟るが、どれを  
選ぶかは読者に委ねられてい  
る、として終わる。この死生観  
は、死後の世界の存在を前提  
としたエジプトの死生観と著  
しく異なっていた。これに対  
し、旧約聖書は、死者の赴く世  
界について思弁を弄すること  
はせず、人は、唯一神信仰のも  
とで、神の祝福のなかに地上  
の生を送ることに集中すべき  
ことを勧めた。そして後に新  
約聖書は、キリストの復活に  
希望を託して生きるべきこと  
を勧めた。



第2回の講演では「古代文  
学における友情とその展開」  
と題して、ギルガメシユ叙事  
詩で語られた王とエンキドゥ  
の友情が、ギリシャ神話の「イ  
リアス」と「オデュッセイア」  
に語られたアキレウスとパト

ロクロスの友情や、旧約聖書サムエル記に書かれたダビデとヨナタンの友情と対比して語られた。これらはいずれも、英雄間の友情物語である。古代ギリシャ・ローマにおいては、真の友人とは誰かが論じられたが、古代メソポタミアや、旧約聖書においては、そのような友情論は展開されなかった。旧約聖書のヘブライ語では、友と訳される語は隣人、寄留者をも意味する。友Ⅱ隣人Ⅱ寄留者という同等関係が成り立ち、友情は隣人愛に吸収された。この考え方は、新約聖書にも引き継がれた。

第3回の講演は「女神イシユタルの誘惑とその周辺」と題して、ギルガメッシュ叙事詩で語られた女神イシユタルのギルガメッシュ王への誘惑を、エジプトやギリシャに伝わる女神や既婚女性が若者を誘惑する物語と対比して語られた。古代メソポタミアや、エジプト、ギリシャにおいては、女神や既婚女性が若者を誘惑する物語が多く語られたが、これらの物語の背景には、家長制的社会の制約から自らを解放し始めた女性の姿が映し出されている。しかしいずれ



第1セッションでは、参加者それぞれが難民との出会を交えて自己紹介をした後、田中さんからRAFIQ立ち上げに至るまでのお話を聞いて

が夫と妻の契約関係になぞられ、異教崇拜は淫行であるとされた。イエスは、情欲を抱いて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのである、と言われた。

こうして『ギルガメッシュ叙事詩』に語られていることを、エジプトやギリシャの思想と対比し、さらに旧約聖書や新約聖書の思想と比較してみることが、旧約聖書や新約聖書に書かれていたことのユニークさが浮き彫りになり、大変興味深い学びの時となった。

●2024年度「開発教育セミナー」第4回  
 「市民(わたし)から始める  
 難民と一緒に暮らせる街をめざして」  
 講師 特定非営利活動法人RAFIQ難民との共生ネットワーク代表理事 田中 恵子さん  
 2024年10月5日(土)～6日(日)  
 会場 関西セミナーハウス



第2セッションでは、様々な国や地域からそれぞれの事情を抱えながら、日本に渡らざるを得なかった難民の現状を、カードを読み合わせながら考えた。そして、田中さんから難民とはどういう存在なのか、また日本の難民保護の現状はどうなのかを話していた。日本は、UNHCRへ多額の拠出をしているにもかかわらず難民認定が極端に少ないのはなぜかという疑問が大きい。膨らんだ。

第3セッションでは、難民条約と関連する法や暮らしの変化について考えた後、田中さんから、ウガンダLGBT深めることができた。

第2セッションでは、様々な国や地域からそれぞれの事情を抱えながら、日本に渡らざるを得なかった難民の現状を、カードを読み合わせながら考えた。そして、田中さんから難民とはどういう存在なのか、また日本の難民保護の現状はどうなのかを話していた。日本は、UNHCRへ多額の拠出をしているにもかかわらず難民認定が極端に少ないのはなぜかという疑問が大きい。膨らんだ。

●2024年度修学院フォーラム「福祉」第1回  
 「夜回りの活動を通して見えてくるもの」  
 講師 同志社中学校・高等学校聖書科教諭 桜井 希さん  
 2024年10月12日(土)  
 会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

第2セッションでは、様々な国や地域からそれぞれの事情を抱えながら、日本に渡らざるを得なかった難民の現状を、カードを読み合わせながら考えた。そして、田中さんから難民とはどういう存在なのか、また日本の難民保護の現状はどうなのかを話していた。日本は、UNHCRへ多額の拠出をしているにもかかわらず難民認定が極端に少ないのはなぜかという疑問が大きい。膨らんだ。

「隣人愛に生きる」実践であると思われた。しかし、真の隣人愛に生きるとは難しい。活動開始頃の路上生活者への対応をめぐって、これまでの自分の生き方が厳しく問われたことを語られた。また、夜回り



「1日の食費が330円しか  
なかったら、何を食べます  
か?」というセミナー冒頭で  
の問いかけから、幅広い年齢  
層の参加者が頭を絞って考え  
た。330円という金額は、現  
在の日本で「1食110円しか  
使えない人たちがいる」とい

うフードバンクの調査結果を  
もとに算出したものである。  
講師の平賀緑さんからは、食  
と現在の経済システム、世間  
で積極的に進められている  
「金融化」についての課題点  
や今後の社会のあり方につい  
てのお話を聞いた。また、小中  
高等学校での「金融経済教育」  
の実践について参加者が報告  
した。平賀さんは、「自分たち  
の年金や預金などについて教  
えることは重要だ」としつつ  
も、「マスコミ」等の報道では金  
融教育の中の資産形成の部分

●2024年度「開発教育セミナー」第5回  
「地球と食の未来を考えるPart2  
〜おにぎりとNISAから考える経済『金融化』のカラクリ〜  
講師 京都橋大学経済学部准教授 平賀 緑さん  
2024年11月30日(土)〜12月1日(日)  
会場 関西セミナーハウス

に参加した学生が、活動を通  
して考えが変化したことを吐  
露した事例が紹介された。他  
者と共に生きることは、相手と  
同格、同じ目線に立つという  
ことであるが、これほど難し  
いことはない。この点が質疑  
応答を通して、参加者一同の  
一人ひとりの立ち位置が問わ  
れたひと時であったと思われる。  
一方、支援活動は行政との  
協働が求められる。単独行動  
で問題が解決するものでは決  
してない。参加者の中からは、  
夜回り活動に関わられた方、  
現在行政に関わっておられる  
方の発言があった。理想と現  
実、他者と自分との関係にお  
いて、私たちは自分の人間と  
しての、社会を構成する一員  
としての立ち位置が問われた  
ひと時であったと確信した。  
この課題は未だ途上である。



講演ではまず、韓国民衆神  
学の産みの親とされる咸錫憲  
(ハムソクホン)のシアル思  
想が、3・1独立運動への参  
加、内村鑑三との出会いやガ  
ンデー研究などを通してど  
のように形成されていったの  
かを学んだ。次に咸錫憲の言  
論や政治活動について説明が

●2024年度修学院フォーラム「いのち」第1回  
「咸錫憲(ハムソクホン)のシアル(民)思想が問いかける  
非暴力平和運動」  
講師 大阪女学院大学 短期大学准教授 朴 賢淑(パクヒョンス)さん  
2024年12月7日(土)  
会場 関西セミナーハウスとZoomによるオンライン

部分のみが強調され過ぎてい  
ないか」と警鐘を鳴らす。  
「金融」は、もともと「余  
っているところから必要なと  
ころへお金をまわすこと」で  
あったが、実体経済では儲け  
られなくなったため、現在は  
世界のGDPの3倍のお金が  
短期間でお金を増やす目的で  
世界中を動き回る金融経済が  
広まっている。この「金融化」  
の流れに食と農も巻き込ま  
れ、今や小麦などの食料の価  
格もそれを生産する農地も、  
投機筋が群がるマネーゲーム  
の「金融商品」になってしまっ  
た。「賢い消費者」で留まっ  
ている状況では社会を変えるこ  
とができない」という平賀さ  
んが言葉を、改めて「人と自然  
とを壊さない世界」について  
考えるきっかけとなった。

〈協力プログラム〉  
金属労協/JCM 第55回  
労働リーダーシップコース  
主催 全日本金属産業労働組合協議会  
2024年10月17日(木)~11月2日(土)  
関西セミナーハウス

本コースは、1969年から、  
歴史を重ねてきた。金属労  
協傘下の組合と友誼団体から、  
今回は38名が参加した。  
寝食を共にしながら、多彩  
な講義、ゼミ別の学習、文化  
体験などを通して互いに研  
鑽し、交流を深めた。特別  
講演には、株式会社山崎製  
作所代表取締役 山崎かおり  
氏が招かれた。



なされ、その中で彼がクエ  
ーの影響を受けていたこと  
が確認された。さらに咸錫憲  
亡き後の非暴力平和運動の展  
開として、池明観(チミョンク  
ワン)による雑誌『世界』への  
「韓国からの通信」連載や金  
容福(キムヨンボック)のWC  
C(世界教会協議会)での働  
き、鄭扯錫(チョンソク)に  
よる国境線平和運動が紹介さ  
れ、最後には直近の韓国大統  
領による厳戒令と市民による  
抗議活動についてもコメント  
がなされた。

シリーズ「戦争と平和」  
その後の話し合いでは、暴  
力の正当化に対抗する非暴力  
文化の構築、周縁化された  
人々を拾い上げていくポピュ  
リズムの動向、自分の頭で考  
えるシアルの育成、それぞれ  
の現場での韓日交流の取り組  
みなど話題は多岐に渡った。  
韓国では民衆の力で民主化を  
勝ち取った経験から、その力  
への信頼が厳戒令布告に対す  
る抗議行動へとつながったと  
いう。我々もまた「考える民」  
となるために、さらなる学び  
とシアル同士の協働が求めら  
れている。

その後の話し合いでは、暴  
力の正当化に対抗する非暴力  
文化の構築、周縁化された  
人々を拾い上げていくポピュ  
リズムの動向、自分の頭で考  
えるシアルの育成、それぞれ  
の現場での韓日交流の取り組  
みなど話題は多岐に渡った。  
韓国では民衆の力で民主化を  
勝ち取った経験から、その力  
への信頼が厳戒令布告に対す  
る抗議行動へとつながったと  
いう。我々もまた「考える民」  
となるために、さらなる学び  
とシアル同士の協働が求めら  
れている。

プログラム案内

◆関東活動センター

■2024年度 聖書を読む講座I (共催:早稲田奉仕團)

「LGBTQ+とキリスト教 『虹は私たちの間に 性と生の正義に向けて』を共に読む」

講師:山口 里子さん(聖書学者) 日時:2月18日(火)18:30~20:00 参加費:全10回8,000円、学生4,000円 方法:Zoomによるオンライン講座

■2024年度 宗教対話I (共催:早稲田奉仕團)

読書会「キリスト教と文学」 講師:柴崎 聡さん(詩人、日本聖書神学校講師)

日時:2月18日、3月18日火曜 14:00~15:30

参加費:1,000円 会場:関東活動センター会議室 (キリスト教会館1階16号)

■2024年度 話し方ワークショップ

「さらに豊かな礼拝のために ことばを届けるトレーニング」

講師:友野富美子さん(日本キリスト教団深川教会牧師) 日時:2月21日、3月21日金曜 18:00~19:30

参加費:各回 1,500円 会場:日本キリスト教団東中野教会

■2024年度 神学生交流プログラム 「これからのクリスチャン・リーダーシップ ~自らの弱さと共に歩む」(仮)



公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー 代表理事 中村 信博

本部事務局 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2147 FAX 075-701-5256

関東活動センター 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館1F TEL 03-3207-6198 E-mail :info@academy-tokyo.com 郵便振替 0190-7-109437

関西セミナーハウス 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2115 FAX 075-701-5256 E-mail :info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23 TEL 075-711-2117 FAX 075-701-5256 E-mail :office@academy-kansai.org 郵便振替 01020-1-5184

講師:才藤千津子さん(西南学院大学 神学部学部長)

校長:神田健次さん(関西学院大学 名誉教授)

日時:3月11日(火)~13日(木) 会場:西南学院大学とZoom併用 =>本紙2頁にプログラム案内

◆関西セミナーハウス活動センター

■2024年度修学院フォーラム「福祉」 第2回「持続可能な福祉社会 ー人口減少社会のデザイン」

講師:広井 良典さん(京都大学 人と社会の未来研究院教授) 日時:2月15日(土)13:30~16:00

参加費:2,000円 学生500円 方法:会場関西セミナーハウスとZoom併用

第3回「対話と尊重の文化を作る ~修復的対話実践~」

(共催:京都YWCA) 講師:毛利 真弓さん(同志社大学心理学部准教授)

日時:3月15日(土)13:30~16:30

参加費:1,500円 学生500円 方法:会場京都YWCAとZoom併用

■2024年度修学院フォーラム「いのち」 第5回「スピリチュアルケアを考える ~病院チャプレンの立場から~」

講師:藤井 理恵さん(元淀川キリスト教病院チャプレン)

日時:2月22日(土)13:30~16:00 参加費:2,000円 学生500円

方法:会場関西セミナーハウスとZoom併用

■2024年度エネルギーを考える 「避けられない原子力災害と捨てられない使用済み核燃料~必要を満たして余りある太陽の光と風の力」

講師:アイリーン 美緒子 スミスさん (環境NGOグリーン・アクション代表)

牛山 泉さん(足利大学顧問、名誉教授)

日時:3月30日(日) 16:00~31日(月) 15:30

参加費:16,000円(泊食代、市宿泊税込) 会場:関西セミナーハウス[対面開催]

賛助会費・寄付金報告

2024年10月1日~12月31日 (順不同・敬称略)

◆財団本部 寄付

柳井 一郎

◆関東活動センター 賛助会費

神谷 伊勢男 神保 信子 戒能 信生 星野 宗吾 林 秀雄 村松 庸子 吉田 博 最上 光宏

寄付

石橋 光朗 武藤 陽一 藤倉 なおこ 大坪 秀子 吉田 博 日本キリスト教団 経堂緑岡教会 アジアキリスト教教育基金 小林 誠治 川畑 泰・淑子

神学生プログラム寄付

原 誠 神保 信子 農村伝道神学校 島田 恒 同志社大学神学部

クリスマス寄付

中村 信博 大坪 秀子 河原田 美哉子 日本基督教団 洛南教会 恵泉女学園中高・宗教部

◆関西セミナーハウス 寄付

黒岩 裕二 荒井 功 WBC2024 近見富美子 柴田 賢司 長谷川 義紘 奈良 睦子 鈴井 さち子 西谷 直子 脇坂 照世 小田 美乃里

◆関西セミナーハウス活動センター 賛助会費

中上 和子 菅 恒敏 島田 誠一 白方 誠彌 桜井 希

寄付

濱崎 敦 水戸 潔 榎本 栄次 桜井 希 織田 雪江 ChristianM. Hermansen 丸山 まり子 柳井 一郎 長谷川 義紘 桜井 希 朴 賢淑 大野 三枝子

クリスマス寄付

熊谷 沙蘭 中村 信博 シュペネマン大島 偕美

小久保 正 多田出 佳代子 林 律 浦 晴子 武山 泰子 山添 みどり 日本基督教団四条噺教会 藤田 恭子 京都みぎわキリスト教会 五十嵐 萬里子 齊藤 洋子 藤永 春子 神崎 清一 藤田 敦子 吉田 力 松田 光代 山本 俊正 和田野 勢津子 井田 光昭 多木 秀雄 日本キリスト教会吉田教会 坂口 みどり 丸山まり子 竹中 百合子 伊藤 正子 松本 忠明 日野 多栄子 脇坂 照世 島田 恒 今川 泰彦・喜子 杉本 尚司 ChristianM. Hermansen 匿名 以上、感謝を持って ご報告申し上げます。